

【開催日時】 令和2年11月05日（木） 午前10時00分～午後12時00分

【開催場所】 能勢町役場西館3F会議室

【出席委員】 委員17名中16名出席の下、開催した。

神吉紀世子、猪井博登、神出計、榎原友樹、尾下忠、野津俊明、中西信介、三浦勝志、中井正明、三浦櫻子、東亮一、中谷博、田中利明、大城桜子、久慈真里、八木修

【事務局】 中島総務部長、百々総務課長、矢立政策推進係長

【協議事項】

- (1) 会議の公開について
- (2) 審議会の進め方について
- (3) 第5次総合計画の振り返り（現行計画の評価）、住民アンケート調査報告（速報）について
- (4) 能勢町をとりまく動向、まちづくりの課題
- (5) その他

・開会

・資料確認、委員紹介

・町長挨拶

町 長） それでは、一言ご挨拶を申し上げたい。

朝から初霜で非常に寒い朝となり、これから能勢町も本格的な冬になると思っている。本日はお忙しい中ご参集賜り、ありがたく思う。また、平素より町政へのご理解賜っていること含めてお礼を申し上げたい。第6次総合計画は町の将来を左右する最上位計画であり、新たなまちづくりの指針になる。住民の皆さまにわかりやすい能勢町の将来像・あるべき姿、さらには能勢町の施策の方向性を示していかなければならないと思っている。すでにご承知の通り、様々な課題があるが、能勢町の明日に繋げるために行政を進めていかなければならない。

今回、これからの将来に向かって能勢町の町を里山未来都市ということで作り上げたいと思っている。暮らしに必要な資源を地域で自給し、循環して自立する持続可能な町を創りあげる都市を「里山未来都市」と言っており、非常に難しいことであろうかと思う。さらにコロナが流行しており、新しく時代も変わろうとしている。しかし、ポストコロナは能勢町のような自立分散型のまちづくりを進めるにあたり、ある意味ではチャンスであると捉えている。それも含めてこれからの10年間の新しいまちの形をどのように作っていく

かということ委員の皆様にはぜひ、様々な角度から積極的な意見・提言を賜りたい。

委員の皆様方は、何かとご多忙のこととは存じ上げるが、今後何度かお集まりいただき、町の将来に向けてより多く議論をしていただき、ご審議いただくことを何卒よろしくお願ひいたたく、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

・会長、副会長選任

事務局) それでは、本審議会の会長・副会長の選出に移る。審議会条例第5条により会長・副会長の選出は互選となっているので、よろしくお願ひする。なお、本会については、地方創生推進委員会を兼ねており、会長・副会長については、地方創生推進委員会の会長、副会長を兼ねてご就任いただくことになるので、何卒よろしくお願ひ申し上げたい。

(委員1名より、会長の立候補があつた。)

事務局) 委員1名より、会長の立候補があつた。いかがか。

委員) 今回の審議会運営については専門性が必要となるため、学識のある方にお願ひしたい。地方創生推進委員会において、これまで会長を歴任されてきた神吉委員が適任であるとする。

委員) 副会長はどなたになるのか。

委員) これから決めるところであるが、副会長も同じく地方創生推進委員会でご経験のある猪井委員にご就任いただくのが良いかと思われる。

委員) 意義はないが、他の委員の方にも聞いていただきたい。

委員) 皆さんにお諮りいただき、決めていただければよい。

事務局) 他にご意見はいかがか。それではご意見はないようなので、先ほど、立候補のご意見があつた、これについてご賛同いただく方、挙手お願ひする。

(多数決中)

また、委員からご意見いただいた学識を有する方、神吉委員に会長、猪井委員に副会長のご意見にご賛同いただく方、挙手お願ひする。

(多数決中)

多数決により、神吉委員に会長、猪井委員に副会長にご就任いただく。一言ごあいさつをお願ひしたい。

会長) 会長に選任いただいた。地方創生推進委員会では比較的、書記に近い役割をしている。なるべく皆さまの意見が出るように会議運営担当として、地方創生推進委員会ではやってきた。能勢町のために役割を担ってこられた方から長年の経験やたくさんのご意見を会議の中で言っていただき、それを活かしていきたい。急な多数決ですぐ手が上がる会議は素晴らしいと思う。他の自治体だと多数決の拒否もある中、能勢町はすごい町であると思っている。

副会長) ご選出いただき、ありがたく思う。私も書記の補佐だと思っており、役職は賜ったが基本的には皆さんのご意見に基づき、進めていきたいと考えている。忌憚ない意見を願います。会議で立候補があるということは中々ないので驚いており、能勢町の力強さを感じている。よろしく願いたい。

・ 諮問

事務局) 次に、上森町長から諮問文の手交をお願いしたい。

(上森町長諮問文朗読、会長に手交)

事務局) では、町長は他の公務のため、ここで退席させていただく。

それでは、ここから議事に入るので、この後の進行については神吉会長より願いたい。

(町長 退席)

会長) では第一回と言うことで、確認をしながら進めていきたい。

議事次第をみていただきたい。6. の議事項目に(1)～(5)までの議題がある。主に(1)～(4)までの議論をこれから一時間半で行う。「(1) 会議の公開について」は制度的な話であるので事務局より説明をお願いする。我々が多く時間を取り議論し合うのは(2)(3)(4)である。数日前に資料をもらい、特に(2)は本日大事であり、一年間で何を実施し、本年度どこまで決めて進行するかを話し合う必要がある。(3)と(4)はもう少し余裕があれば次回以降かと思う。今から一時間半宜しく願います。先ず、「(1) 会議の公開について」事務局より説明をお願いする。

・ 議題

(1) 会議の公開について

事務局) 審議会の運営にあたり、2点お取り決めいただきたい。まず1点、「審議会の公開の有無について」、もう1点が「会議録の取り扱いについて」である。なお、本日参考資料としてお配りしている「能勢町審議会等の会議の公開に関する指針」において、会議は原則公開とし、会議録及び会議資料については閲覧できるよう努めることとしている。ついては、本

審議会も、原則公開とすること、ならびに議事録及び会議資料についてホームページ等で原則公開することについて、委員の皆様のご意見を賜りたい。なお、議事録については要点記録とし、発言者の委員名を伏せて公開したいと考えている。ご審議よろしく願います。

会長) 会議は公開とし、資料・議事録は後日公開するという事務局の説明どおり進めてもよろしいか。傍聴の方が来られることもあるということによろしいか。

委員) 傍聴ということは一般の方が来られるということか。

会長) 今日は来られないが、一般の方が来られることもある。いかがか。

(異議なし)

会長) 特に異議は無しとみなし、会議は公開とし、資料・議事録は後日公開するという事務局の説明どおり進める。

事務局) 議事録については、ホームページ等でこれまで委員名は伏せて公開するので、今回もそのようにさせていただきたい。

(2) 審議会の進め方について

会長) それでは議事「(2) 審議会の進め方について」に進みたい。事務局より説明をお願いします。

(事務局より資料1の説明)

会長) 基本構想は一般的なものとなっており、多くの自治体では信念のようなものを文章で書いている。計画というものは、もう少し時間をかけるものだと思う。本年度中に今日を含めて5回開催して、今年度は基本構想の信念のようなものを議論し、来年度は基本計画を決める形である。

委員) 資料を見させていただき、大変よくまとめられている。役場の方を褒めてあげたい。第5次総合計画もよく書けている。これをたたきき台として、進めていけばよいと思っている。当然、付け加えたり、省いたりする箇所も出てくると思っている、これからの審議になると理解している。ただ、具体的なことが書いておらず、具体性がないと住民は読まない。しかし、第5次総合計画に則って進めてほしいと思う。

会長) 他に進め方についてご意見は、本年度中にここまで議論した方がいいのではないかと意見等があれば、ご意見伺いたい。

委員) 最初に認識を共有させていただきたい。総合計画の位置づけが最上位とされていたが、第5期総合計画の時から地方自治法が変わって位置づけが変わっているので、事務局から説明させていただきたい。これまでの総合計画が高度成長を前提とした右肩上がりだったものが少子高齢化、人口減少などの新たな問題に直面し、総合計画の位置づけが変わってきている。そこを共有しないと絵にかいた餅になってしまう。会長や事務局の方からご説明いただいた方が議論を進めやすいと思う。

会長) この話は共有したほうがよいと思う。総合計画の位置づけについて、実際まちづくりをされている皆さんから、もっと「このように総合計画を位置付けてください」というようなご意見伺いたい。

副会長) PDCA というものがよく言われており、PDCA は自分の計画をチェックするだけという。最近では PDCA ではなく、ARU とよく言っている。A アセット (分析しましょう)、R リポート (報告しましょう)、U ユーズ (使いましょう) という意味である。

ご意見があったように、第5次総合計画は教科書という意味でもまさに今日、どこまで進んだかという議論があると思う。それを地域住民の方に出来るだけ知っていただき、出来ればここに来ていただいている委員の方に意見を出していただくことは大事であるが、前に作成した「総合計画」も示して理解していただき、町の皆さんが我が事として、自分の住んでいる町がこのようになっていくのだと知っていただくことが必要である。先ほどご意見があったように、高度経済成長の時は「高度経済成長の時に町は何をするのか」ということを決めればよかったが、今の非常に苦しい中では住民の方にも一緒に考えてもらう。そのために、以前の総合計画をお伝えし、皆さんから意見をいただいて発展させていくという部分は、基本構想につながる。基本構想というのは「理念」というあいまいなところを、この場の皆さんだけではなく、できる限り地域住民の皆さんの声も聞いて反映させていく。それがアンケートというやり方なのかもしれないが、一度お戻しして報告をあげていくということが上手なやり方なのではないか。

会長) 地方創生推進委員会でもアイデアは出すが、それをどのように力にして何が出来るかということが難しい。

委員) 町長の公約である7つの基本プロジェクトの中に「能勢町を豊かに、みんなが誇れる町へと成長させます」というものがある。町長の7つの基本プロジェクトは具体的なことが書いてある。これも基本構想の中に入れて加味すれば、伝わりやすいのではないか。

会長) 町長の公約も検討対象にするということは、良いアイデアである。

委員) 前回の選挙で町長の公約が分かりやすいものであったので、町民に伝わりやすいのではないかと考えた。

会長) 町長の公約を再評価するという事は非常に面白い。進め方について第5次総合計画の時のお話をさせていただきたい。当時、私は分科会の取りまとめの担当で、何の政策をやるかについて、施策大綱表の作成に非常に時間をかけた。例えば、やりたいけど相当難しいということにマークを付けて書いておくというようなことにした。「難しい」とされことを書き出すことで可視化すると案外達成できていたりするものもある。しかし全てを達成することはやはり難しく、持ち越しという形になったこともある。進めるときに内容を盛り込もうという意見をいただき、動いている施策との関係を書いておくことにトライした。そのようなアイデアをお持ちの方、アイデアまでは行かずともこのような改革は出来ないかなどのご提案があればいただきたい。

委員) 能勢町を含めて高齢者の多い町は介護保険や医療を議論している。そのような議論の中で、例えば子どもの話ならばその専門家というように、能勢町の他の委員会の中では、様々な専門分野の方が議論をしている。その専門の委員会の中で意見を聞いて、総合計画の委員会にも提案していくというのはどうか。そのようなことも一つの進め方ではないかと思う。

先ほど会長も仰っていた第5次総合計画の基本計画の中に「C」というチャレンジのマークを書いたということを知った。例えば、介護要項の推進の「社会参加の支援」に「C」がついているが、「いきいき百歳体操」というものがあり、大阪の色々な町が取り組んでおり、能勢町では概ね三千数百人の高齢者がおられる中で、高齢者の三分の一の千人が参加してくださっている。交流会館などで要介護認定者・要介護認定率が減少傾向にあるという報告をさせていただいた。これはチャレンジ要項であったが実行できた。このような所が能勢町の町民の素晴らしいところだと思う。このように専門の委員会のご意見を反映させるということを推奨したい。

会長) そのような見方もあるのかと勉強になっている。他にご意見はないか。

委員) 1年半という期間があるので、話し合いができることを期待している。コロナの中で、大きな枠組みでの基本的な違いはないと思っている。出来れば、いくつかの専門性や目標としているところを分科会的に組み合わせで議論していった方が良いと思う。また分科会の委員にオブザーバーとして参加していただき、傍聴参加で意見を述べるということをしたほうが良い。この人数だけでは基本的な話だけで終わってしまうような気がしている。第5次総合計画を振り返るとコンサルタントを入れずに審議をしていた。時間があるので、「少子高齢化」、「人口減」というテーマだけでも頭が痛い課題をもう少し皆さんとかみ合わせて議論していきたいと思っているので提案したい。

会長) 先ほど議論の場は全部で5回あると説明したが、例えば本会の中に分科会方式で開催するとなると、事務局側に負担がかかるので難しいと思う。今回は1回目であるが、2回目と3回目あたりをうまく使って、小さい人数の分科会を開催する方式にしてはどうかという提案であったと思う。事務局との相談となるが、確かにこのやり方は良いと思う。第5次総合計画の時に少人数で開催した時は話の内容が具体的になった。

第5次総合計画の振り替えりになってきたので、次の議題に進みつつ、ご意見をいただければと思う。議事としては(3)と(4)に入っていきたいと思うが、議事(3)第5次総合計画の振り返り(現行計画の評価)、住民アンケート調査報告(速報)について、事務局より説明をお願いします。

- (3) 第5次総合計画の振り返り(現行計画の評価)、住民アンケート調査報告(速報)について
- (4) 能勢町をとりまく動向、まちづくりの課題

(事務局より資料2の説明)
(建設技術研究所より資料3の説明)

会長) 第5次総合計画の実現状況がどうなのかということをもとめていただいている。また、速報ではあるがアンケートで第5次総合計画の施策毎に結果をもとめていただいている。本日ここから意見交換をしていきたい。【資料4：能勢町をとりまく動向、まちづくりの課題】という資料があるが、同時に合わせて進行したい。こちらの資料の内容としては変わらないか。

事務局) 内容としてはほぼ同じになっており、今まで触れていなかった国の動きや、大阪府の動きが20ページから26ページにかけて現在の国の考え方等が書かれている。今後の議論にご利用願いたい。

会長) 現状に対する評価や総合計画でこういうことが書かれていたがどうするのか、などのご意見出していただければと思う。どこからでも結構なので、お願いします。

委員) 第5次総合計画の振り返りで最後に「まちづくりへの期待と課題」とあるが、「まちの土台づくり」の中に『都市インフラの適正サイズ化と新たな開発』と『市街化区域と市街化調整区域の土地利用における規制・誘導』がある。この部分に能勢町は足を突っ込んで議論をしないといけない。空き家は足し算、人口減少は引き算であり、難しい計算はいらない。約100km²の町域に市街化区域は2%にも満たない。地方創生の名のもとに弾力運用をしていかないと、人口が減るのは分かり切っており、我々のような団塊世代は亡くなっていく。能勢町での年間新生児は19人、高齢者は150人ほど亡くなっている。これを単純に計算すると年間130人減少しており、それを補うためには転入者しかない。能勢町には二つの財産があり、一つは既存住宅地に多くの空き地があること、先行投資で設備を整えて都会の人に定着してもらいたい。役場の人もここに住んでいかないといけない。残念なことに役場の人も川西市などに住んでおられると聞いている。不動産業者がこの既存住宅地の空き地を買って、建物を建てて売ることができる準備をしないといけないのに、なぜそれ許可しないのか。

会長) 第5次総合計画の時も市街化調整区域の問題で議論になった。

委員) 第4次総合計画の時は一般参加として参加したが議論が途中で遮断された。ここで申し上げたいのは当初は人口2万人にすると掲げられていたが、2万人なんて無理だと理解され、最終的には目標を1万7千人に減らされていた。私は人口が増えるどころか減少するのではと思っていたが、まさにその通りになった。市街地調整区域がどうしようもないと考えており、この鎖国政策を変えないと失われた20年は取り戻せない。この問題は突っ込んで具体的な施策を考えたい。

会長) 貴重な20年越しのご意見をいただいた。他に何かあるか。

委員) 今回、総合計画がメインで書かれているが、途中、ひと・まち・しごとの創生戦略の策定もあり、住民が変わったのかと思うくらい内容も変わってきている。アンケート調査で満足度も具体的な数値出てきているが、内容もかなり変わっているので、次回に参考資料として総合戦略を提出していただいた方が議論しやすいのではないと思う。

以前は人口を増やすという議論で政策立てているので、今の人口減の現状に合わせて考えた方がかみ合うと思う。資料をお願いしたい。

会長) それではここから終わりまでの時間で、1人ずつご意見をいただきたい。

委員) 人口が減るということは仕方がないと思っている。人口が減る中でそこに住んでいる人だけでなく、住むとなると家族間の合意を得るのが難しいけれども「自分はここに来るぞ」という人を少しずつ増やしに行くということが大事ではないかと考えている。ただ、SDGsを大切に考えているが、例えば高校生に自分たちの高校が元気になるにはどうしたら良いのだろうなどと投げ掛けることは、教育にも関連すると思っている。

交通の手段を考えると、電動自転車を使うことで健康が関係し、一つの課題が色々な所に関係しているので、上手くデザインすることで、一つ解決したら結びつきでもう一つが解決するという効率化をしていくのが良いのではないと思う。

委員) 能勢町で起業をされている社長さんは多くいて、能勢町の地の利はよいと聞いている。京都府の舞鶴や神戸に出るときも時間が早く環境はよい。ただ、企業誘致をするにあたって中々土地がなく、農地を転換できないことが大きな課題である。例えば能勢町に企業誘致を考えている方がいてもスピード感がでない。スピード感がなければ企業誘致が厳しい。能勢町が大好きな社長さんがいるが、中々誘致が出来ない。企業の方に聞くと、能勢町から来ているパートさんや従業員さんの評価は高い。企業誘致がうまくいかないのが人材が優秀なのに流出している。土地が動かないのが能勢町の課題である。そこを解決すれば、企業を誘致しやすくなるのではないかと考えている。

委員) 第5次総合計画の時の参加メンバーであるが、当時最も議論に上がったことが、市街化調整区域、土地利用の線引きと企業誘致である。市街化調整区域、土地利用、企業誘致、そのようなことをしながら人口を増やしていく。しかし、自然を残したいという思いも根強

くある。現在の市街化調整区域は時代にそぐわないと思い、どのような形で緩和するのかを考えないといけない。線引きがある中で、実際にどう動いていくか、今回の審議会ではそのような実態が知りたい。そのような中、この10年の計画期間の中で今年コロナが流行して、若い方の田舎の見方が変化している。車があれば高速道路を利用し、15分で都会に出でられるが、車がなければ何もできない現状があり、学校に能勢町から通えるのかという教育の問題がある。これも含めて、社会状況が大きく変わっているので、線引きを何とかしないとイケないが、それ以外に能勢町民のメンタリティーがどう変わっていくか、流入してくる人をどう迎えるのか、次の10年は現状を踏まえて、この町をどうしていきたいか、将来の人のあるべきイメージ像を次回の審議会で皆さんのご意見をお聞きしたい。

委員) 前回の地方創生推進委員会の時も意見を出させていただいた。人口が減るということについて、これは仕方がない。若い人が結婚しない。29歳～39歳の男性は7割が結婚していない。同じ年代の女性の6割は結婚している。その中で、子どもを産み育てることが減り、自然減が続いている。少子高齢化でここ最近をみても、19人しか生まれてないし、150人が亡くなっている。その中で、自然減が続いているのはどうしたものか。茨城県が県単位でお見合いを進めているということを知った。菅総理も不妊治療の保険適用を言っていたが、結婚しないとその選択肢は出てこない。まずは出会いの場を設けるといいかがか。

委員) 仕事柄、情報発信として企業の魅力や個人の魅力について、SNSを活用した情報発信をしている。地方創生は「集客」を行うことではないかなと思っている。様々な行政にリサーチをかけても、どこの行政も共通して、言葉を選ばずに言うと「しょぼい」と感じている。魅力があってもそれを伝える場所がない。また、集客をしたいと考えていても、プロモーションをするための予算がないと出来ない。能勢町はとても素敵で、他所からきた人間も受け入れてくれる。他では外部の方を受け入れてくれるところがないところもある。肌感覚としては、人が本当に良い環境だと感じている。集客をしていくのであれば、能勢町の魅力を発信する場、集客の場が必要だと思う。クチコミだけでは時代的に無理であるから、戦略を練る必要がある。能勢町のSNSなど発信するプラットフォームを作ったほうが良いのではないかな。

委員) 若い人の意見を聞いてあげてほしい。人口増やすには企業誘致して、外部流入を増やせば良いのは理解しているが、先祖代々の土地など封建的な文化も残っている。しかしその封建的な部分で成り立って残っているものもある。ITを駆使するという意見は良いと思う。能勢町にも少しずつIT企業が増えてきており、淡路島に東京からパソナが移転するという話もある。私のような古い人間はITなど分からないから、対人間で行きたいというものもあるが、今の時代はそんなこと言っている時代ではないと思っている。私などは親から家業引き継いだが、家業を継げと言っても今の時代にそれだけでは生きていけない。時代は変わっていると感じている。

委員) 土地の問題の意見があったが、私自身も親や祖母から土地を増やしても減らすなと言うよ

うなことを幼い頃から言われて育っている。私に限らず、多くの人はそのようにして土地を守ってきたのかなと思っている。私自身、現在小学校と関わることが多い。子供や親とお話しさせていただく機会の中で、能勢町が好きな子が多く、学校環境も良いと耳にしている。では能勢町で子供を育てるといのはどうかと聞いてみると、それは難しいということを知る。子どもが大きくなって高校、大学に進学し、就職となれば、能勢町には住まないと思う。中々人口を増やすということは簡単にはできないが、流出を減らすという方向も考えるべきではないかと思う。

委員) 皆さんのご意見について、参考になっている。この会議は人間の基礎の部分で議論しているので、本当に大事な部分と思っている。何が重要と考えた場合、やはりロジック、成果に対してアウトプットをしていくことが重要である。それを協議し、どのように実現化させていくか、環境設定を示していく必要がある。それを1つのものとして目標にするために分科会というものも大切である。1つの課題を触ることによって、全て関連性ができて、連動的な作業が行われる。生きていく地盤となっている農業の問題、歴史的な問題、若い方が能勢町に帰ってこない、能勢町で生きていける方法が見つからないという問題、これを解決しなければ、経済的に発展しないと思う。このようなことをいつも考えているので、人口の減少は心が痛い。現在の能勢町では教育は成り立たない。これは北摂地域として考え、グローバル化していくべきである。行政サービスとして、人が住みやすいということは何だろうか、老人にやさしい町は何だろうか。能勢町で生きていくには自動車がないと生きていけない。能勢町は大切な場所だと感じており、何とかして活性化したいと考えている。

委員) 生まれも育ちも能勢町で、能勢町の魅力はよく知っている。両親から子育てはよかったと聞いているが、育ってきた身としては生きにくい。今年免許を取得して自分の移動手段を得たが、子どもの頃はどこにも親の送り迎えがないと行けなかった。両親も共働きになると移動手段が得られなくなる。自宅がまだバス停に近くて良かったが、バス停まで遠い人もいた。大学に通うために他の市に兄弟3人で家を借りている。通学・就職するにも能勢町からは厳しい。今はオンライン授業等が進んでおり、交通の便が悪くと言っても車があれば大阪まですぐに出られるので、能勢町にいても勉強や仕事ができる環境にはなっている。今後もっと整えていけば、都会に近い田舎の魅力を発信できるのではないかと思う。

委員) 能勢町の一番良いところは、住民の繋がりであると思っている。介護や福祉という分野は、地域包括的なシステムを各町がリソースに合わせて作っていくことと言われており、今まさに地域包括システムを作っていくことに従事している。能勢町には病院はないが、非常に素晴らしい医師や介護士がいる。医療・介護が地域の生活と一体化して、既に地域包括の精神が構築されている。それは能勢町の方が住民同士の繋がりを非常に大事なおられるということである。大学や就職をし、能勢町に戻ってきた時には地域包括ケアシステムが完備されており、また能勢町に生涯住んでもらえるような、少なくとも能勢町で生まれた方はそのようになってほしい。一度能勢町を出てもまた戻ってきてくれるよう

な、そのような町を作っていかなければと思う。

今回のコロナでオンラインというものが活性化し、能勢町にいても授業や仕事をするこ
ともできるようになりつつある。SNS でどんどん発信して活性化してほしい。私に関わっ
ている話ではあるが、「能勢町健康長寿研究」で多くの町民に協力していただいて実施して
いる。効果検証で協力いただいた大阪大学や京都大学の先生もおり、アカデミックな部分
と繋がって、能勢町全体がリサーチや研究に協力するというようなことを売りにするとい
うのも一つの戦略と思う。

委員) 能勢町は 60 年以上前に 2 つの地区の住民が合併した。西地区と東地区で比率は概ね 6 : 4
であった。2 つの地区では同じ仏教であるが、宗派が違っていった。考え方に大きな違いはな
かったが、気質がまったく違っていった。何故かという、同じ能勢町の中でも統治者が江
戸幕府の直轄地のところとそうでないところがあり、300~400 年の歴史と宗教が違って
いた。

委員) 住民アンケートの公共交通の項目で、満足度マイナスとなっていることが心苦しい。これ
までの経過をご説明したいが、また次の機会に話したい。地域交通会議などで意見が出て
いるので、今後、知恵を出していきたい。

委員) 私も能勢町にきて 50 年である。能勢町に移住したい人はたくさんいる。

委員) 委員の方々はそれぞれに固定観念があり、フラットにしたいと考えている。都市計画の線
引きを見直したら町は変わるのか。交通の便が良くないと言うが、10 分に 1 本で能勢電
鉄が運行している豊能町の方が、能勢町以上に人口が減少している。交通の不便とは何か
と思う。仕事がないと言うが、どんな仕事がないのか。このようなことを考え、議論して
いきたい。

会長) 様々なアイデアが出るように、今後もご協力をさせていただきたい。アイデアは密で議論
した時に出てくることもある。それでは事務局に進行をお返りする。

・閉会

事務局) 次回については、12 月 24 日を予定している。ご協力の程、よろしくお願ひしたい。

以上